

校長室から

学校教育目標

　　「知・徳・体、調和のとれた生徒の育成」

　　　　　　　～進取的な努力をする人材の育成～

令和5年2月9日　第45号

著作権フリ－です

その昔、以下の文章を学級通信に綴って、わざわざ封筒に入れて「心配で夜眠られなかったら読みなさい。それが大丈夫なら、当日試験会場に着いて緊張しているなあと感じたら読みなさい」なんて言って配ったなぁ。

やれるんだ

だれもが自分より賢く優秀に見える。

今まで体験したことのない緊張感がくちびるを乾かせる。

大勢の中の静寂。

見慣れない机、椅子、黒板……。

ひとりぼっちのさみしさを感じるに違いない。

だれも助けてはくれない。やさしく説明してくれる人もいない。

やがて、真っ白な解答用紙が配られる。

「はじめ」の合図とともに机をたたく音。

……コトコトとみんなを追いつめていくことだろう。

あれほど勉強したのに、はじめて見る問題ばかり。

ふと、軽い絶望を感じたりするはずだ。

自分自身の無力感。

地面にたたきつけられた雨粒のように、小さな自信が粉々に砕かれるかもしれない。

そして、もっと大きな孤独感が絶望を連れて再びみんなの思考を邪魔するだろう。

巨大な緊張感。

底なしの無力感。

そして、絶望的な孤独。

しかし。思い出せ。

あの体育大会のみんなの声援を。

文化祭の開幕のベル。あのときの緊張感を。幕が下りた時の充実感を。

教室に響きあうみんなの歌声を。

いま、みんなが苦しんでいる。

ひとりじゃないんだ。

さあ、思い出せ、クラスみんなのあの笑顔を。

きっと、みんなの笑顔は、苦しい気持ちを救ってくれる。

やれるんだ。